

人 気 女 優 2 2 歳

第六卷

公衆の面前でヘアヌード

ファミレス篇

海老沢 薫 著

内容

■ 著作権について

■ まえがき

■ 第一章 素人達の手で絶頂

■ 海老沢薫 B L O G

■ 海老沢薫 W e b 連載小説

※ 海老沢薫 B L O G

・ ・ ・ 最新作の出版情報や、そのほか各種コ
ンテンツ情報などを配信。

<https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/>

■ 著作権について

「人気女優 22 歳 第六巻 公衆の面前でへ
 アヌード ファミレス篇」（以下本書と表記
 する）の著作権は「海老沢薫」にあります。

・ 本書のすべての内容は、日本の著作権法、
 及び国際条約によつて保護されています。

・ 「海老沢薫」が事前に書面をもつて許可し
 た場合を除き、本書の一部、または全部を、
 あらゆるデータ蓄積手段（印刷物、電子ファ
 イル、ビデオ、テープレコーダー）により複
 製、流用、転載、転売することを固く禁じま
 す。

・ 著作権の侵害につきましては、著作権法第
 119 条などの罰則がありますのでご注意くださ
 い。

■ まえがき

人気女優・神里美優は、今をときめく清纯派として活躍する一方、ある弱みを女芸人・北原貴子に握られていた。

北原はそれを盾に、極秘のヘアヌード写真集の撮影を強引に持ちかけ、美優は拒むことができず、屈辱的な条件をのみ込むしかなかった。

最初の撮影場所は、ショッピングモール内のスポーツ用品店。試着室に全裸で放置された美優は、偶然やってきた女性客に姿を見られ、窮地に追い込まれる。ヘアヌードの事実を隠すため、彼女は自らを「露出狂」と偽って告白し、その場を凌ごうとする。

だが女性客たちはそれを真に受け、興味津々で美優の体を鑑賞し、触り、弄び始める。人気女優としてのプライドを碎かれながらも羞恥と予期せぬ快感に翻弄される美優。北原はそれをすべて見届け、満足げに撮影を終えるのだった。

二週間後、次の撮影場所に指定されたのは、郊外のファミレス。女優は北原の指示どおり、蛍光ピンクの極小ビキニという場違いな姿で一人入店する。店内の視線が集中する中、北原は日常空間での非日常を狙い、テーブルの上で四つん這いや大股開きなどの過激なポーズを次々と命じる。水着を捲つて秘部を晒し、トップを外して半裸となり、ついには下も脱ぎ捨て一糸まとわぬ姿に。周囲の客や店員が見守る中、女優は羞恥に震えながらも指示に従うしかない。さらに北原は、素っ裸のままドリUNKバーへ向かわせ、仕掛け人の女性客たちに引き合わせる。彼女たちは女優を「露出狂」と煽り、四つん這いで店内を徘徊させる。お尻を振り、汁を垂らしながら客の目に晒される女優。北原はその一部始終をカメラに収め、最後には全裸のまま食事をさせ、足で刺激を与えながら撮影を続ける。

日常の場で人気女優が晒す破廉恥な姿。羞恥と快感が交錯する中、女優は徐々に北原の支配に屈していく。写真集の撮影はこれからさらに過激さを増していくのか――女優の運命は、どこへ向かうのか。

■ 第一章 素人達の手で絶頂

ショッピングモールの中にあるスポーツ用品店の店内では、今をときめく人気女優の神里美優が試着室の中に全裸で放置され途方に暮れていた。するとそこへ、試着室をとおうとやって来た二人組の女性客についてカーテ

ンを開けられ、その恥ずかしい姿を余す所なく晒すことになってしまったのだった。

二人組の女性客はカーテンの向こうに現れた全裸の人気女優に驚き、暫し呆然とした表情でその美しい裸身を眺めていた。

「えっ、アナタって女優の神里美優ちゃんだよね？」

「なんでこんな所に裸でいるの？」

ようやく落ち着きを取り戻した女性客達は、試着室の中に素っ裸でいる美優に問い掛けた

「それは・・・」

美優はどう答えればいいのか分からなかった。ヘアヌード写真集の話はまだ極秘事項であり、

その撮影をここでしていたと言わけるにはいかず、かといって、女芸人の北原貴子の毘に嵌まり、素っ裸でここに放置されたのだと本当の事を言えば、北原からとんでもない報復を受けそうで、恐くてとても言えなかった。「こないだ週刊誌の記事に美優ちゃんが実は露出狂だって書いてあるのを読んだけど、もしかしてコレってそういう事なの？」
「ヤダあ、ここで裸になつて露出ごっこを楽しむ女性客達がそう問い掛けると、美優は思わずそれを否定しようとして、すぐに言葉を呑み込んだ。」
「いっそこで恥を忍んで自分は露出狂で、ここで露出ごっこを楽しむのだとウソの告白をした方が、ヘアヌード写真集の事もバレず、自分の弱みを握る北原に迷惑を掛け事も事もなく済むと思ったのだ。」
「ねえ、美優ちゃんどうなのよ？」
女性客は目の前にいる素っ裸の人気女優をマ

ジマジと見つめながら問い掛けた。
「そ、そうです。・・」
追い詰められた女優は、ついに露出狂である
とウソの告白をし、その場を何とか凌ぐようと
した。
「エッーヤダあ、信じられない！」
「女優ちゃんてやっぱ露出狂だったんだあ
女性客達は酷く驚きながらも、何処か女優を
嘲笑っているようにも見えた。
「・・」
完全に露出狂扱いされてしまった女優は恥ず
かしくて堪らず、両手で胸元と股間を隠しな
がら顔を真っ赤にして俯いた。
「それじゃあ、せっかくだから私達が女優ち
やんの露出ごっこに付き合っただけよ」
「私達別に女優ちゃんが露出狂だってことを
SNSで拡散したりしないから、その手をど
けて女優ちゃんの体をもっと良く見せてえ」
女性客達はそう言って、女優に体を隠してい
る両手を離すよう命じた。

「そんな・・・」
美優は彼女達の厚かましい要求に戸惑いを隠
せなかった。
「美優ちゃん露出狂なんですよ！だから私達
がその体を良く見てあげるって言っているん
じゃない！」
「そうよ、こんなチャンスめったにないわ
よ！」
美優がなかなか体から手を離そうとしないで
いると、女性客達は少し苛立った様子で人気
女優を責め立てた。
「ご、ごめんなさい・・・」
美優が謝る必要など全くなかったが、女性客
達の迫力に圧倒されたのか思わず頭を下げた
「美優ちゃんが体をちゃんと見せてくれない
なら、『ここに全裸の人気女優がいます！』
って大声で叫んでもいいんだよ」
「露出狂の美優ちゃんにはそっちの方が嬉し
かったりして（笑）」
女性客達がそう言って脅迫すると、美優はも

う躊躇ってはいらなかった。
「わ、わかりました・・私の体をちゃんと
見せますから、大声を出したりしないでくだ
さい」
女優はそう言うのと、両手をゆつくりと体から
離していった。
「オオッー」
人気女優の豊かな乳房と下腹部に生えた恥毛
が露わになると、女性客達は感嘆の唸り声を
上げた。
それは、同性が見ても羨むほどに美しく、
そして欲情をそそる体であった。
「美優ちゃんのオッパイめっちゃ綺麗！こん
なに大きいのに垂れてないし、ほんと羨まし
いわ」
「下の毛は見かけによらずワイルドなんだね
（笑）」
女性客達が人気女優の裸身についてそれぞれ
の感想を漏らすと、美優は激しい羞恥に全身
を小刻みに震わせた。見ず知らずの同性に至

近距離で胸や恥毛を鑑賞されていると思うと、
美優はいつしか全身が妖しい快感に侵されて
いくのを感じ、秘部を濡らし始めていた。
「美優ちゃん、せっかくだからオッパイちょ
つと触っていい？」
「私も触りた〜い！」
女性客達はそう言うのと、美優の了解を得る前
に勝手に胸元に手を伸ばし、その豊かな乳房
の弾力を確かめるように揉みしだいた。
「ああん、いやあん」
同性の繊細な手つきで両方の乳房を揉まれた
美優は、堪らず恥ずかしい喘ぎ声を漏らして
悶えた。
「美優ちゃんのオッパイとっても柔らかいね
」ほんとは羨ましくていじめたくなっちゃう」
女性客達は、美優が抵抗しないのを見ると好
き放題に乳房を揉みだき、目の前で悶え狂
う人気女優の姿を面白そうに眺めた。
「ああん、もうやめてくださいー」
このままでは見ず知らずの彼女達の手でイッ

てしまうと思った美優は、二人に向かって必
死に許しを乞うた。
「美優ちゃん、そんなこと言って、乳首ビン
ビンだよ（笑）」
「本当は嬉しいくせに、素直じゃないんだか
ら（笑）」
女性客達はまったく美優の願いを聞き入れよ
うとはせず、むしろこのまま自分達の手で人
気女優をイカせてやろうと考えていた。
「あああん、そんな・・・いやあっ」
美優は女性客達が手を止める意思がないこと
を知ると、このままイッてしまいかも知れな
い恐怖に喘いだ。
「美優ちゃんのコッチはどんな感じなのか
な？」
女性客の一人はそう言うのと、片手を美優の股
間に伸ばし、なんと指を秘部の奥に挿入した
のだった。
「あああん、そこはダメえ」
乳房と秘部を同時に弄られた美優は首を横に

振って悶え狂い、一気に絶頂へ追い詰められ
たように見えた。
「美優ちゃん、アソコがびしょびしょだよ
へ笑」
「テレビだと清纯そうに見えるけど、本当は
ただのドスケベさんなんだねへ笑」
女性客達はビッシヨリと濡れた人気女優の秘
部を見ながら呆れたように呟いた。
「いやあん、見ないでください！」
美優はあまりの恥ずかしさにこのまま消えて
しまいたかった。
「それじゃあ美優ちゃん、そろそろイキなさ
い！」
女性客達はそう言うと、秘部と乳房を弄る手
にさらに力を込め、美優を絶頂へと追い詰め
ていった。
「いやあん、もうダメえ・・・あああっ、イ
クっイクっイクっイクうう」
美優は下半身を震わせながらメスの泣き声を
上げると、グッタリと項垂れ女性客達に寄り

かかった。
「イエーイ！ 女優ちゃんをイカせたよ！」
「ヤッター！ 人気女優に勝ったね！」
人気女優を見事イカせた女性客達は互いにハ
イタッチを交わし、健闘を称え合った。
それから程なくして、快感の余韻から覚め
た女優は、さっきの女性客達の姿がなくなり、
カーテンが開け放たれた試着室の中に一人素
っ裸で蹲っていることに気づいた。いやあ、
恥ずかしい……。女優が慌ててカーテンを
閉めようとすると、そこへ北原がようやく戻
ってきたのだった。
「女優ちゃん、お客さん達に体を弄られて気
持ち良さそうだったわね（笑）」
北原は意味深な笑みを浮かべながらそう声を
掛けた。
「えっ……。」「
女優はその時、これまでに起きた一部始終を
北原に目撃されていた事を思い知ったのだっ
た。

試着室に籠もっているところに女性客達がやって来て、彼女達の前で全裸姿を晒し乳房や秘部を弄られイカされた事まで全部、このゲスな女芸人は知っているのだ。

「美優ちゃんの素敵な写真が一杯撮れたからここでの撮影はこれで終わりにするね」

北原はそう言うのと、美優が脱いだ服を返したへアヌード写真集の初めての撮影は、美優に想像以上の屈辱と快感をもたらし、これから先の撮影がより過激なものになることを予感させたのだった。

■ 海老沢薫 B L O G

・ ・ ・ 最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報を配信。

<https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/>

■ そのほか SNS

https://x.com/ebisawa_K

https://www.instagram.com/kaoru_ebisawa/

<https://www.pixiv.net/users/70200870>

■ 海老沢薫 Web 連載小説

『 清楚な美人妻 彩 27 歳 絵画モデル編 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=9281>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 国民のペットへと堕ちていくヒロイン ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18802>

『 清純派女優 結衣 24 歳 ー 女神の憂鬱 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=26675>

『 女教師 玲奈 25 歳 ー 女性教諭の前代未聞の不幸事 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=17186>

『 美人社長 里帆 26 歳 ー 若き女社長のブライドを砕く屈辱の契約 ー 』

<https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18885>